

2011年9月5日
韓国プレス・センター

ソウル国際親善協会・浅川学術会議

時代の国境を越えた愛
浅川巧の林業と韓国工芸工芸に関する研究

植民地時代、迫害と苦痛を共有して癒えられた
国境の壁を越える智慧

編纂 黎美
国際日本文化研究センター、総合研究大学院大学



（南山の山頂から）少し下ると朝鮮神社の工事をしてゐた。美しい城壁は壊され、壮麗な門は取り除かれて、似つきもしない崇敬を強制する様や神社など巨額の金を費やして建てたりする役人等の横がわからない。

浅川巧『日誌』1922年6月4日

「朝鮮神社も永久に日鮮両民族の融和を計る根本の力を有してゐないばかりか、これから又、問題の的にもなることであらう。」

浅川巧『日誌』1922年6月11日

朝鮮総督府建物、1930年代の写真

（南山）山上から眺めると景福宮内の新築庁舎など家に馬鹿らしくて籠が立つ。白岳や助政殿や慶会楼や光化門の間に無理強情に割り込んで座り込んでゐる。知はいかにもづつうしい。然もそれ等の建物の調和を破っている様にも見える。

朝鮮総督府庁舎建設地にあった景福宮の元来の姿

浅川巧『日誌』1922年6月4日

1916年以前の景福宮

解体前の旧総督府 1990年代頃

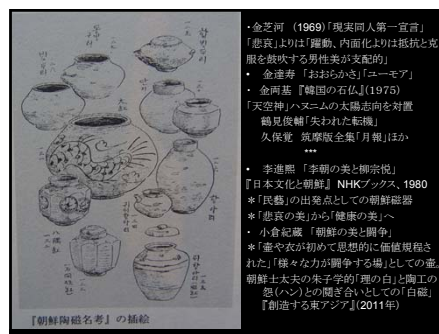
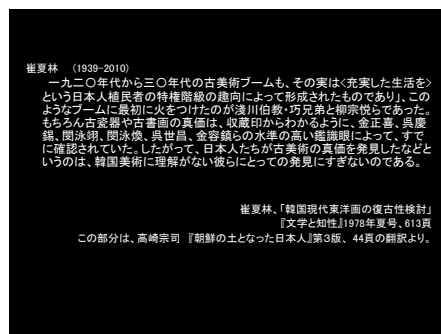
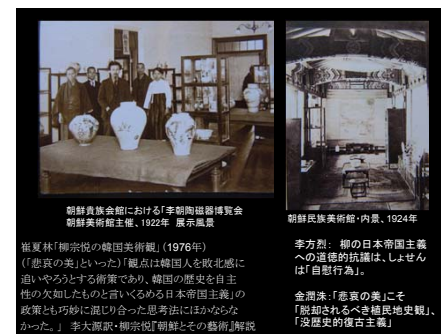
旧総督府建物・内景 1990年代前半、解体前

朝鮮総督府建物 1920年代の絵葉書

George Lalande (1872-1914)
Edith Pitschke Lalande remarried to Togo in 1922
東郷（朴）茂徳 朝鮮系末裔
Togo Shigenori (1882-1950)
Minister of Foreign Affairs

朝鮮総督府建物 1920年代の絵葉書

1900年代の光化門
柳宗悦『矢はれんとする一朝鮮建築のために』雑誌『改造』1922年9月号
「光化門が朝鮮総督府の建造のために破壊されようとしたのに抗議する一文」(水原比呂志)『朝鮮の暴乱』『安寧の破壊』として検閲・削除。
「ユ・ジョンヨル」問題 国籍多項





「浅川は寧ろ鮮人の心で生きてゐたのである。否、鮮人以上に朝鮮の心が解つてゐたのである。」 柳宗悦『工藝』浅川巧追悼号、1934年4月

「柳さんは、浅川は朝鮮人にとっては、小泉八雲の日本人におけるような人だと口にしておられました。」有賀喜左衛門『社会学と人間』理想社、1972年2月号

Lafcadio Hearn (1850-1904)・小泉八雲 への同倉天心 (1863-1913) の弁題
同倉天心 Tenshin Okakura, "In Defense of Lafcadio Hearn,"
New York Times, Nov. 04, 1906

ハーン＝八雲は、日本に帰化したことを、gone native、重婚 bigamyと中傷されたのを、同倉は、名譽毀損と反駁。



Lafcadio Hearn (1850-1904)
Koizumi Yakumo (小泉 八雲)

天心・同倉堂三
Tenshin, Okakura
Kakuzo
(1863-1913年)

柳 宗悦 (1889-1961)
Yanagi Muneyoshi
(1863-1913年)

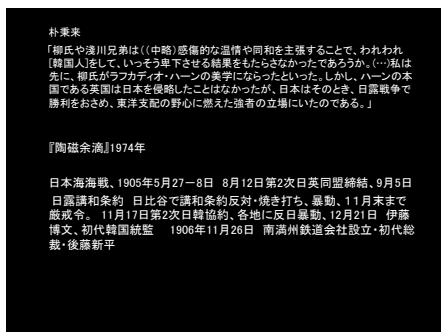
「柳氏や浅川兄弟は((中略))感傷的な温情や同和を主張することで、われわれ[韓国人]をして、いっそう卑下させる結果をもたらさなかったであろうか。(…)私は先に、柳氏がラフカディオ・ハーンの美学になつたといつた。しかし、ハーンの本国である英国は日本を侵略したことはなかったが、日本はそのとき、日露戦争で勝利をおさめ、東洋支配の野心に燃えた強者の立場にいたのである。」 朴東来 (陶磁収集家) 『陶磁余満』1974年



George Bigot, Toba-6, 1906
日英同盟と、米合衆国からの借款なくして、財政破綻ゆえ、日露戦争はありえなかった。また、韓国民衆＝知識人が反日となつたのは、日本戦勝後の日韓協約＝恐約以降。



日韓協約＝韓日脅約 1906年 『朝鮮の語』1929年 高崎宗可編、岩波文庫、36頁。



朴東来
「柳氏や浅川兄弟は((中略))感傷的な温情や同和を主張することで、われわれ[韓国人]をして、いっそう卑下させる結果をもたらさなかったであろうか。(…)私は先に、柳氏がラフカディオ・ハーンの美学になつたといつた。しかし、ハーンの本国である英国は日本を侵略したことはなかったが、日本はそのとき、日露戦争で勝利をおさめ、東洋支配の野心に燃えた強者の立場にいたのである。」

『陶磁余満』1974年

日本海海戦、1905年5月27-8日 8月12日第2次日英同盟締結、9月5日
日露講和条約 日比谷で講和条約反対・焼き打ち、暴動、11月末まで
厳戒令。 11月17日第2次日韓協約、各地に反日暴動、12月21日 伊藤
博文、初代韓国統監 1906年11月26日 南満州鉄道会社設立・初代総
裁・後藤新平



"We may differ with his philosophy or quarrel with his deductions, but of all foreign authors he has reached nearest the heart of our People." Okakura Kakuzo, "In Defense of L.H.," 1906

"Surely we could lose two or three battleships at Port Arthur rather Than Lafcadio Hearn." Yonejiro Noguchi, 1904

The Role of A Foreign Messenger in Transnational Spiritual Tie.



世界がぜんたい幸福にならないうちは
個人の幸福はあり得ない(…)いまわれらにはまだ労働が 生存がある
ばかりである(…)いまわれらは新たに正しき道を行き
われらの美をば創らねばならぬ
衰頹をもてあの灰色の労働を厭せ
ここにはわれら不断の激く美しい創造
がある

『農民芸術概論綱要』 1926年稿

人とは一面働き蜂のように工作とか生産とか
いうことに「本能的に興味を有つ性質があるよう
に思う。(…)何仕事でも終生修まずに働き通せたら
その人は幸福だと思ふ。人類全体もその人から
お前を養ふことが多いてであらう。何だ、資本の心を
を養ふ労働でなくて、資本があつてもそれに自由に
されぬ仕事、またなくても勝手に仕送げられる
仕事でなくては人間に平安をあたさないであらう。

『朝鮮の語』 1929年 高崎宗可編、岩波文庫、36頁。



浅川巧墓前供養 2010年8月



「浅川は寧ろ鮮人の心で生きてゐたのである。否、鮮人以上に朝鮮の心が解つてゐたのである」
柳宗悦『工藝』浅川巧追悼号1934年4月

Lafcadio Hearn (1850-1904)・小泉八雲 への同倉天心 (1863-1913) の弁題
同倉天心 Tenshin Okakura, New York Times, Nov. 04, 1906 (『日韓協約』締結以降の発言)

朴東来
「柳氏や浅川兄弟は((中略))感傷的な温情や同和を主張することで、われわれ[韓国人]をして、いっそう卑下させる結果
をもたらさなかったであろうか。(…)柳氏がラフカディオ・ハーンの美学になつたといつた。しかし、ハーンの本国である英
国は日本を侵略したことはなかったが、日本はそのとき、日露戦争で勝利をおさめ、東洋支配の野心に燃えた強者の立
場」にいたのである。『陶磁余満』1974年

*日露戦争以前の日露支配時代から時代を遡及した会報化、これらの情報知識人は日露戦争で初期は日本支持。
*日露戦争戦勝後、日本には大連支配が可能なだけの資本力も政治的「野心」もなし。財政破綻寸前の状態。
*「日本は支配する強者であるから、柳や浅川にはハーンを模範とする資格なし」の推論は破綻している。
さらに、ハーン＝八雲は、日本に帰化したことを、gone native、重婚bigamyと中傷されたのを、同倉は名譽毀損と反駁。
日本海海戦、1905年5月27-8日以前の段階での同倉の発言、英国には対馬領有の意図ありき、日本に代理させた。